

美作の狛犬（7）

田渕千香子

はじめに

美作地域の狛犬を悉皆調査し始めてから、早7年目となった。現在402社を巡り、狛犬261対を確認することができ、新たな発見がいくつも出てきた。

今までにも何度か書いてきたが、美作地域には主に島根県の出雲型、大阪の狛犬、愛知県の岡崎型、広島県の尾道型など4種類の狛犬が入ってきており影響している。4種類の狛犬は、時代の流れの中で様々な展開を見せている。小稿では、美作地域の岡崎型狛犬について考察していきたい。

岡崎型狛犬について

岡崎型狛犬は、美作地域に限らず全国的にも多くの分

布している狛犬である。岡崎型狛犬の特徴は、耳が横に伸び、蝋燭のように伸びた尻尾、姿勢は、座型であり、石材は、花崗岩であることが多い。

岡崎型は、一見すれば判断しやすい。これは、愛知県岡崎市で生まれた石工 酒井孫兵衛（6代目）が神殿狛犬の様式を現代風にアレンジして岡崎現代型の雛型を造り上げ割り寸など、この狛犬の「制作マニュアル」を自分の弟子のみならず、広く岡崎の石工たちに公開したため、あっという間に全国へ広まった^{註1)}。

こうして、岡崎型狛犬は一定の様式を確立して広まったため、様式から大きく逸脱したものは少ない。



(写真1) 福本神社(美作市福本)大正13年(1924)
酒井孫兵衛



(写真2) 入江神社(西粟倉村大茅)昭和7年(1933)
作者不明



(写真3) 米来神社(真庭市米来)昭和11年(1936)
津之国 西宮石匠岡田石材店



(写真4) 八幡神社(真庭市中原)昭和12年(1937)



(写真5) 高良神社(津山市押入)昭和14年(1939) (写真6) 五座神社(美作市豊国原)昭和15年(1940)
石匠 石隆



(写真7・8) 八幡神社(真庭市下砦部)昭和15年(1940)
石匠 石隆



(写真9) 岩山神社(新見市豊永字山)昭和15年(1940) (写真10) 作楽神社(津山市院庄)平成元年(1989)
石匠 石隆 作者不明

美作地域の岡崎型狛犬の変遷

美作地域で、現在確認できている岡崎型狛犬は、63件である。一番古いものは、福本神社(美作市福本)の大正13年(1924)に造られた、酒井孫兵衛作の狛犬である(写真1)。年代、姿形から6~8代目の

作品と考えられる^(註2)。

昭和7年(1933)には、入江神社(西粟倉村大茅)に作者不明の岡崎型狛犬がある(写真2)。昭和11・12年(1936・1937)には、米来神社(真庭市目木)、八幡神社(真庭市中原)に、兵庫県の石工岡田一男が

作製した狛犬がある(写真3・4)。昭和14・15年(1939・1940)になると、高良神社(津山市押入)、五座神社(美作市豊国原)、八幡神社(真庭市下砦部)に2対、岩山神社(新見市豊永宇山)に津山石隆の銘がある岡崎型狛犬を確認することができる(写真5・6・7・8・9)。石隆の関係者のお話によると、昭和7年頃には岡崎市と流通があったという事なので、昭和14年以前のものの中にも、石隆製岡崎型狛犬があると考えられる。その後も石工銘は不明ながら、岡崎型狛犬を確認することができる。昭和30・40年代に入って以降は、完全に機械化がすんでいく(写真10)。藤原好二氏は、手彫りから機械化への転換、そして現在、岡崎型が全国へ広まっている理由に関して言及している。石工の技術教育について、手彫り時代の徒弟の制度から機械化を勧める岡崎の技能養成所の出現が大きな役割を果たしたとしている。養成所には、全国から

研修生が集まって学んでいたことから、全国へ一気に岡崎型が広まっていたのではないかとしている(註3)。

石隆と橋本庄太郎

さて、石隆が昭和7年頃より岡崎市と流通があったという話より、美作地域で岡崎型狛犬を広めるのに一躍をかっていたことがわかる。「津山 石隆」と銘のある狛犬は、美作地域に6件確認できる。しかし、一番古い昭和7年の西幸神社(美咲町西幸)の狛犬は、岡崎型ではなく出雲型である(写真11)。岡崎型を導入する前は、出雲型を造っていたことが窺える。

さて、石隆がどの段階で出雲型狛犬から岡崎型狛犬へ転換したのか考えていたところ、台座に「津山市橋本庄太郎」と銘がある出雲型狛犬を見つけた(写真12)。鶴山八幡神社(津山市山北)、田植神社(倉敷



(写真11) 西幸神社(美咲町西幸) 昭和7年(1932)
津山石隆 彫刻



(写真12) 田植神社(倉敷市粒江) 昭和3年(1928)
津山 石工 橋本庄太郎



(写真13) 鶴山八幡神社(津山市山北) 昭和3年(1928)
津山市元魚町 橋本庄太郎彫刻



(写真14) 田植神社(倉敷市粒江) 昭和3年(1928)
津山 石工 橋本庄太郎



(写真 15) 幣代神社(久米南町上糀) 昭和3年(1928)
津山 石工 橋本



(写真 16) 八幡神社(美咲町藤原) 昭和3年(1928)
津山 彫刻師 橋本庄太郎

市粒江)、幣代神社(久米南上糀)、八幡神社(美咲町柵原藤原)の4件である(写真13・14・15・16)。いずれも昭和3年に造られている。思うところあり、石隆に問い合わせたところ、「橋本庄太郎は、石隆の2代目である。」と答えてくださった。関係者のお話によると、橋本庄太郎は細工物が得意だったようである。石隆が岡崎型を取り入れる前は、出雲型を造っていたことが明白になった。昭和7年には、岡崎市と流通があったということから、西幸神社の狛犬が石隆最後の出雲型狛犬であると考えられる。

おわりに

今回は、美作地域の岡崎型狛犬についてまとめ、気づいた点などをあげた。岡崎型狛犬は、現在全国的にも広がっているものであり、今後の調査でまだまだ発見があるものと考えられる。

小稿を書くにあたって、藤原好二氏には岡崎型狛犬に関する情報を教えていただいた。石隆の関係者には橋本庄太郎に関する重要な情報を教えていただいた。調査では、漆間信宏氏、須江夫妻にお世話をなった。末筆ではありますが、記して御礼申し上げます。

【註】

- (1) たくみみつよし 『狛犬かがみ』 バナブックス 2006年
- (2) 田渕千香子 『年報 津山弥生の里第17号』津山弥生の里文化財センター 2010年
- (3) 藤原好二 『岡山市埋蔵文化財センター研究紀要第3号』岡山市教育委員会 2011年

番号	神社名（所在地）	年代	石工銘	材質	型	保存状態
1	福本神社 (美作市福本)	大正 13 (1924) 年	酒井孫兵衛	花崗岩	岡崎型	良い
2	入江神社 (西粟倉村大茅)	昭和 7 (1933) 年	不明	花崗岩	岡崎型	良い
3	米来神社 (真庭市目木)	昭和 11 (1936) 年	津之国 西宮住 岡田一男	花崗岩	岡崎型	良い
4	八幡神社 (真庭市中原)	昭和 12 (1937) 年	津之国 西宮石 匠岡田石材店	花崗岩	岡崎型	良い
5	高良神社 (津山市押入)	昭和 14 (1939) 年	石匠 石隆	花崗岩	岡崎型	良い
6	五座神社 (美作市豊国原)	昭和 15 (1940) 年	津山 石隆刻	花崗岩	岡崎型	良い
7	八幡神社 (真庭市下砦部)	昭和 15 (1940) 年	石工 津山石隆	花崗岩	岡崎型	良い
8	八幡神社 (真庭市下砦部)	昭和 15 (1940) 年	石匠 石隆	花崗岩	岡崎型	良い
9	岩山神社 (新見市豊永宇山)	昭和 15 (1940) 年	石匠 津山石隆	花崗岩	岡崎型	良い
10	作楽神社 (津山市神戸)	平成元 (1989) 年	不明	花崗岩	岡崎型	良い
11	西幸神社 (美咲町西幸)	昭和 7 (1932) 年	津山石隆 彫刻	凝灰岩	出雲型	良い
12 14	田槌神社 (倉敷市粒江)	昭和 3 (1928) 年	橋本庄太郎	凝灰岩	出雲型	良い
13	鶴山八幡神社 (津山市山北)	昭和 3 (1928) 年	津山市元魚町橋 本庄太郎彫刻	凝灰岩	出雲型	良い
15	幣代神社 (久米南町上糀)	昭和 3 (1928) 年	津山 橋本	凝灰岩	出雲型	良い
16	八幡神社 (美咲町柵原藤原)	昭和 3 (1928) 年	彫刻師 橋本庄 太郎	凝灰岩	出雲型	良い

本稿記載の石造物データ